



幼児教育と小学校教育における 言葉の指導の接続

國學院大學人間開発学部子ども支援学科

吉永安里

幼児教育WG・保育専門委員会取りまとめ案（概要）

～資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」の実現～

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性

- 平成29年告示の3要領・指針において、幼児教育の内容の基準に関して整合性が図られるとともに、保育所は「幼児教育を行う施設」であることが明記された。これにより、幼稚園・保育所・認定こども園に通う乳幼児に対して、施設類型に関わらず、内容の整合性が図られた3要領・指針に基づく幼児教育の充実が進められている。
- 幼児教育の質の向上を図る上で、乳幼児にとっての「学び」である「遊び」のプロセスが、資質・能力の育成に深く結び付いていくという「遊びの深まり」を実現することが不可欠であることから、「遊びの深まり」の実現を目指し、改善を図る。

（補足イメージ参照）

2. 資質・能力の在り方、構造化のポイント

- 「学びに向かう力、人間性等」の主要な要素については、従前より幼児教育が重視してきた心情、意欲、態度が育つ中で育まれることなどにも考慮しつつ、乳幼児の発達を踏まえて整理。
- 3要領・指針が資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」を実現する手掛かりとなるよう、「育みたい資質・能力の3つの柱」、「3つの視点及び5つの領域のねらい及び内容」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係性を明確化し、相互の整合性を図るとともに、「0歳児」、「1～2歳児」、「3歳以上児」のねらい及び内容のつながりを整理する。これにより、長期的な視点から乳幼児の資質・能力の育成を促す構造化を行い、改善を図る。

3. 内容の改善の在り方

- 0歳から18歳までの「学び」を見直し、「学び」の連続性・一貫性を図るため、必要を見直しを行う。
- 遊びの中で多様な動きを伴う体験の充実と身体感覚の育成：0歳児から、園生活全体の中で乳幼児の自発的な活動としての遊びを通して、多様な動きを伴う体験を充実するとともに、そうした体験を通して身体感覚を養う指導を充実。
- 他者と関わり協同する力の育成：0歳児から、他の乳幼児への関心を深め自ら関わろうとする意欲を支える援助を充実。人と関わる力が育まれていく中で、園という身近な社会において、自分とは異なる他者と関わり、他者とともに目的を形成し、その目的に向かって協同していく力の育成を図る指導を充実。
- 言葉を用いて考える力の基礎の育成：0歳児から、受容的・応答的な関わりを基本としつつ、豊かな言葉掛け等を通して、言葉の理解や獲得を促すとともに、乳幼児が自分なりに考えたり、思いを伝えようとしたりする意欲を支える援助を充実。直接的・具体的な体験に伴い、思いや考えを表したり伝えたりしたくなり、それらを言葉で表すようになっていく中で、言葉を用いて考える力を育むため、援助を受けながら、更に考えようとして言葉を用いる指導を充実。

4. 指導・評価の改善充実の在り方

- 施設類型に関わらず、全ての幼稚園・保育所・認定こども園において、指導の改善が図られるよう、乳幼児理解に基づいた評価を行うことを規定。記録と振り返りを充実するとともに、乳幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取る視点をもつことを重視。「学び」を見取って振り返り、環境の構成・再構成や援助など実践を改善充実することにより、「遊びの深まり」を実現し資質・能力の育成を図る。
- ICTの活用に当たっては、発達に応じて、乳幼児の直接的・具体的な体験の充実を図る道具として活用することとし、乳幼児の直接的・具体的な体験を阻害する活用とならないよう、必要な留意点を示す。

5. 保育所及び幼保連携型認定こども園における養護等の改善充実の在り方

- 乳幼児は、生命の保持と情緒の安定が図られ、見守られているという安心感や信頼感に支えられながら、行動範囲を広げたり、自ら身近な環境に働き掛けたりしながら成長していくことから、養護を基盤として、乳幼児期全般を通して育ちと学びを支えていくことができるよう、その位置付けや記載内容の整理を図ることが重要。

6. 特別な配慮を必要とする乳幼児への指導や支援の改善充実の在り方

- 障害のある乳幼児への指導の充実には、「基礎的環境整備」の充実を促すとともに、「合理的配慮」の提供が確実に行われるよう規定。
- 外国人の乳幼児等の指導の充実には、日常的な関わりや言葉掛けにおいて、「日本語の力を育む視点」をもち、一人一人の実態に応じた指導の工夫を行うことを重視。

7. 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の在り方

- 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校において、対話を通じて互いの教育への共通理解を図るとともに、共通の教育的視点に基づき「架け橋期のカリキュラム」を協働して作成するなどして、学びのつながりを意識した実践の改善を図ることにより、それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実を図る。

8. 家庭や地域との連携・支援の在り方

- 幼稚園・保育所・認定こども園と家庭とが、「乳幼児の育ちや学びを共に支える関係性」であることを踏まえた連携・支援の充実を図るとともに、特別な配慮を必要とする乳幼児の保護者等への個別支援や地域の保護者の子育てを支援する取組の一層の充実を図る。

9. 各幼稚園・保育所・認定こども園の幼児教育を支える地域の体制の在り方

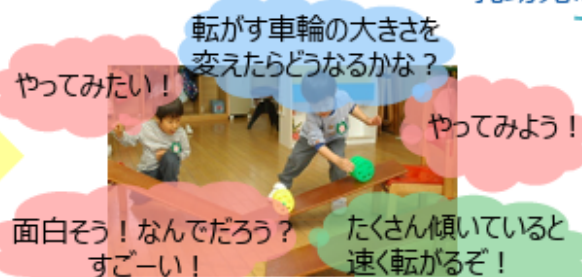
- 設置者や施設類型に関わらず、3要領・指針に基づく質の高い幼児教育が行われるよう、地域において、各幼稚園・保育所・認定こども園を支える体制の整備を推進する。

資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」の実現

- 全ての乳幼児に対して質の高い幼児教育を提供するため、設置者や施設類型に関わらず、幼児教育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）において、資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」の実現を図り、幼・小・中・高を通じた学びの改善を図る。

乳幼児は園生活の中で「遊び」を通して「学ぶ」

乳幼児理解に基づく環境構成と援助



- ・乳幼児期は、自らの興味や関心に基づく遊びにおいて、様々なものや人などの身近な環境に直接的・具体的に関わり、成長に必要な体験を積み重ねていく時期。
 - 幼児教育は、環境を通して行うものであることを基本とし、直接的・具体的な体験を通して資質・能力を育む。
 - 乳幼児は、園生活の中で多様な遊びを通して様々なことを学んでいる。
 - ・乳幼児一人一人への理解に基づき、乳幼児一人一人に応じて行うことが重要。
- 資質・能力（「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」）を一体的に育成

一層の深化

自発的な活動としての遊びが、資質・能力の育成に向けて一層充実することにより、「遊びの深まり」が実現されるよう、幼稚園教諭・保育士・保育教諭が、意図的・計画的に環境の構成・再構成や援助を行うことが重要

→ 乳幼児の自発的な活動としての「遊び」を更に深める手掛かりとなる要領・指針への改善を図る

★「学び」の深まりに向けた「遊びの深まり」の実現

- 「遊びの深まり」を構想しやすくするための資質・能力の構造化
 - ・「育みたい資質・能力」、「3つの視点及び5つの領域のねらい及び内容」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係性の明確化・整合性
 - ・遊びを通して「好き」や「得意」を見付けたり広げたり深めたりする直接的・具体的な体験の充実
- 0歳からの学びのつながりを踏まえた内容の改善
 - ・言葉を用いて考える力の基礎の育成
 - ・他者と関わり協同する力の育成
 - ・遊びの中で多様な動きを伴う体験の充実と身体感覚の育成

↓ 幼・小・中・高を通じた学びの改善

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)

× 当事者意識を持って、自分の意見を形成し、対話と合意ができる

学びを踏まえた改善

★乳幼児理解に基づく指導と評価の改善充実

- 設置者・施設類型に関わらず、乳幼児理解に基づく評価を実施・充実
 - ・園生活で見られる乳幼児の具体的な姿の記録と振り返りの充実
 - ・遊びの中の「学び」を見取る視点の重視による指導の改善

↓ 学びの可視化・言語化
(幼児教育で育まれた資質・能力を共有するための「対話のための資料」の作成・活用)

学びのつながりを意識した改善

★幼児教育と小学校教育との円滑な接続

- それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実
 - ・合同研修や相互参観等の機会を充実し、対話を通じて互いの教育への共通理解の促進
 - ・共通の教育的視点に基づき、「架け橋期のカリキュラム」を協働して作成するなどして、学びのつながりを意識した実践の改善

※幼児教育：0歳～小学校就学前までの幼稚園、保育所、認定こども園における教育

資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」のイメージ

- 要領・指針を手掛かりに、幼稚園教諭・保育士・保育教諭が、3つの視点・5つの領域のねらい及び内容の理解に基づきつつ、乳幼児の姿から見取った遊びの中の「学び」を生かして、環境の構成・再構成や援助を行うことを通じて、「遊びの深まり」を実現し、乳幼児の資質・能力の育成を図る。

記録と振り返りの充実、園内・他園・小学校との対話を通じて、
乳幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取る

⌞ 長期的視点からは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（5歳児後半において遊びが深まり、資質・能力が総合的に育成・発揮された時の姿）を念頭に。

乳幼児の姿からの見取り

乳幼児理解
の深まり

「学び」を見取り、
実践を改善充実することにより、
「遊びの深まり」を実現

指導計画に基づく実践の充実
(環境の構成・再構成、援助)

教育的意図

(ねらい及び内容に基づく構想の創意工夫)

3つの視点・5つの領域

- ・**ねらい**：幼児教育において育みたい資質・能力を視点・領域ごとに明確にし、乳幼児の生活する姿から捉えたもの。実践を構想する際の環境構成や援助に込める意図として示されている。
- ・**内容**：ねらいで示した資質・能力の育成において重要な乳幼児の経験として必要な構成要素を明確にしたもの。各視点・領域の特性を踏まえ、乳幼児の経験が豊かなものとなるよう、乳幼児の姿を捉えた環境構成や援助の骨子となる。

資質・能力が育ちつつある具体的な乳幼児の姿

知識及び技能の基礎

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感ずたり、何に気付いたり、何が分かったり、何かできるよくなるようにするの?)

思考力、判断力、表現力等の基礎

(遊びや生活の中で、気付いたことや、できるようになったことなどを使い、どう考えたり、試ししたり、工夫したり、表現したりするの?)

学びに向かう力、人間性等

(心情、意欲、態度育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

「遊びの深まり」の実現による
資質・能力の一体的な育成

諸感覚を働かせ心と体が動く
直接的・具体的な体験

「好き」や「得意」を見付け広げ深める

遊びが深まる過程

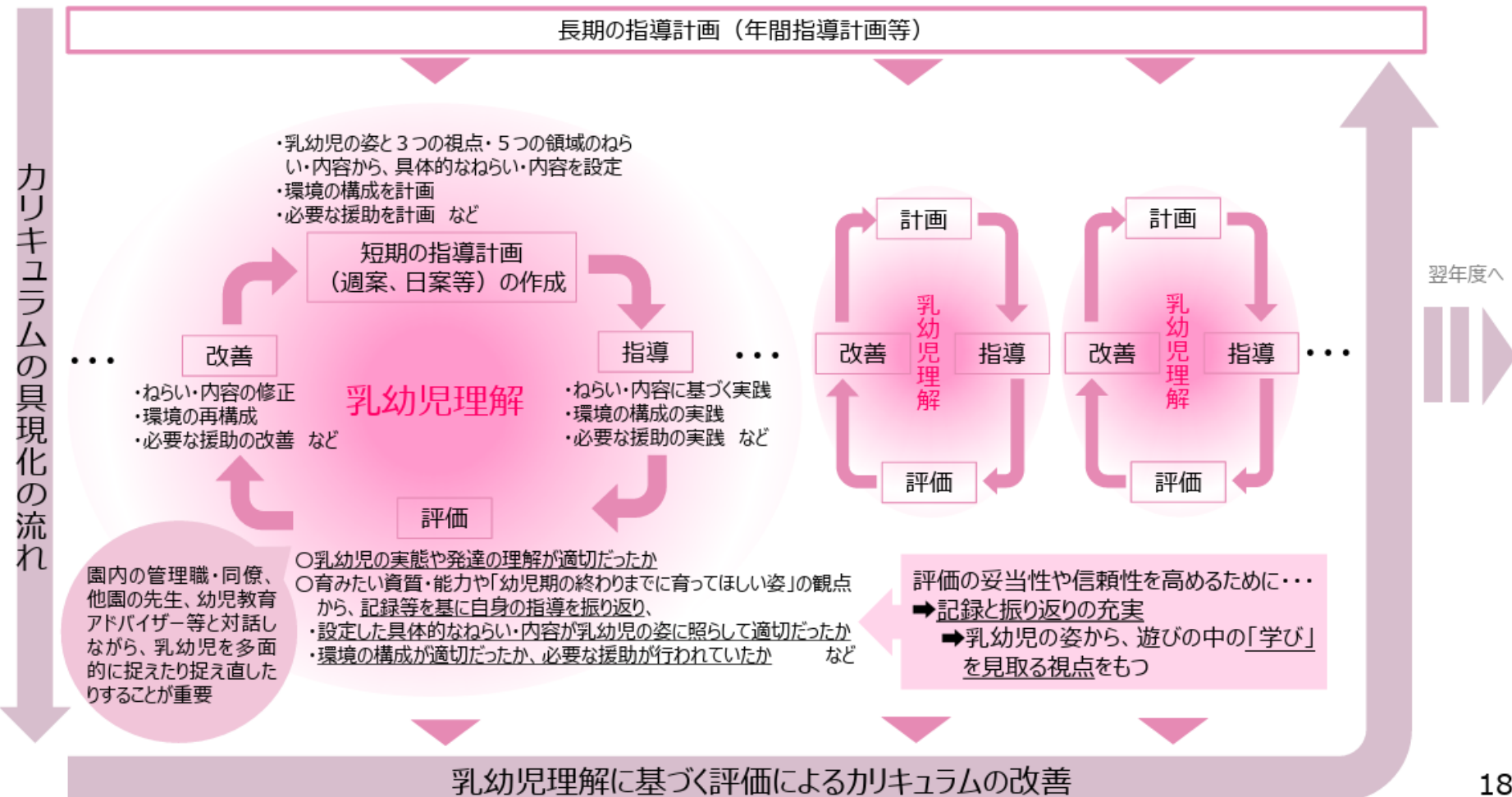
試してみよう!
やってみよう!
態度

やってみよう!
もっと〇〇してみよう!
意欲

面白そう!
なんでだろう?
すごい!
心情

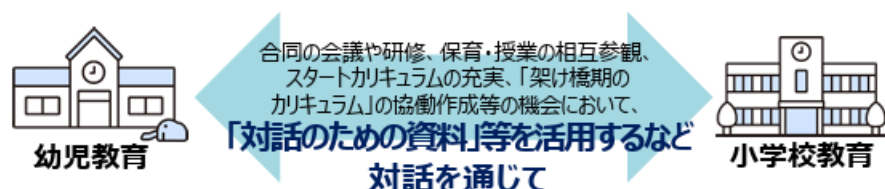
乳幼児理解に基づく指導と評価の改善充実の在り方のイメージ

- 施設類型に関わらず、全ての幼稚園、保育所、認定こども園において、指導の改善が図られるよう、乳幼児理解に基づく評価を行う。
- 評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価の参考となる記録と記録に基づく振り返りを充実するとともに、その際、乳幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取る視点をもつことを重視。



幼児教育と小学校教育との円滑な接続のイメージ

- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るに当たっては、それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実を図る観点から、互いの教育への共通理解を図るとともに、幼児教育と小学校教育との学びのつながりを意識した実践の改善を図ることが重要。
- 設置者や施設類型に関わらず、幼児教育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）及び小学校や地域の実情に応じ、対話を通じて、
 - ① 互いの教育に対する共通理解を図り、
 - ② 小学校1年生が幼児教育施設でどのような生活や学びをしていたのかを踏まえつつ、スタートカリキュラムを充実し、
 - ③ さらに、「架け橋期のカリキュラム」を協働して作成等する過程を通じて、学びのつながりを意識した実践の改善を図る。



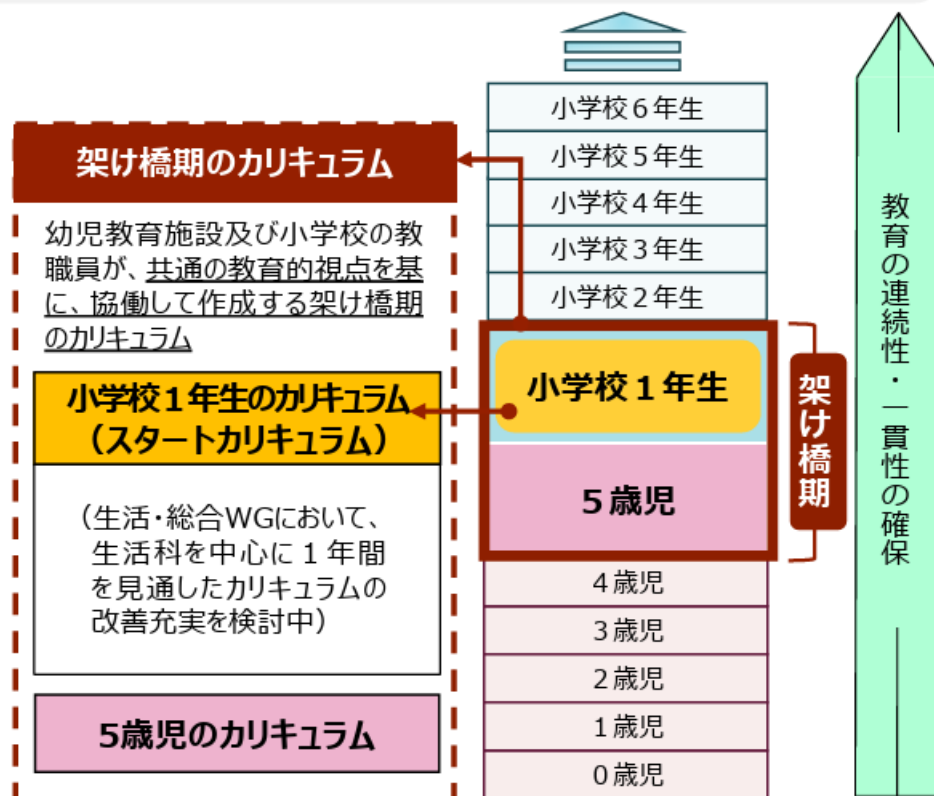
互いの教育に対する共通理解

- 【幼→小】幼児教育の基本的な考え方（環境を通した教育、遊びを通した総合的な指導）、「遊びの深まり」の実現による資質・能力の育成
- 【小→幼】各教科等の見方・考え方、各教科等における体系的な指導
- 【幼↔小】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組の改善



学びのつながりを意識した実践の改善

- 【幼】幼児の姿から、遊びの中の「学び」を見取り、幼児教育において育まれる資質・能力について小学校と共有し、「学びのつながり」を検討
- 小学校の各教科等における資質・能力の育成を見通して、幼児教育における遊びをどのように深めるとよいかを踏まえた実践の改善
- 【小】小学校の各教科等において育成を目指す資質・能力について、幼児教育施設と共有し、「学びのつながり」を検討
- 幼児教育において育まれる資質・能力を小学校の各教科等の学習にどう生かすかを踏まえた実践の改善



※「幼児教育」：0歳～小学校就学前までの幼稚園、保育所、認定こども園における教育。
「幼」は幼児教育の略称として使用。

それぞれの専門性を発揮した教育の互恵的な充実

学びに向かう力、人間性等の今後の整理イメージ

【現行の記述】

小学校学習指導要領総則解説（抜粋）

児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。

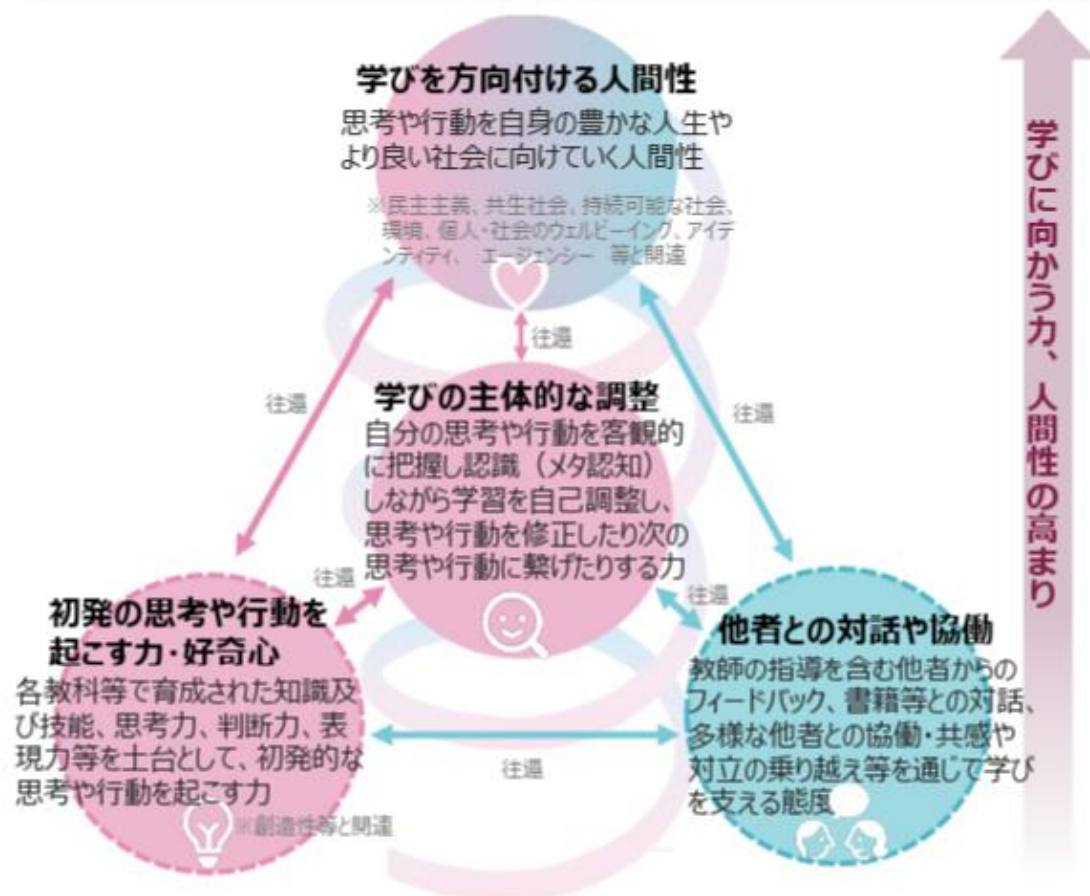
（中略）

児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を主体的に学習に取り組む態度も含めた学び客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。

また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。

【今後の整理イメージ】

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む

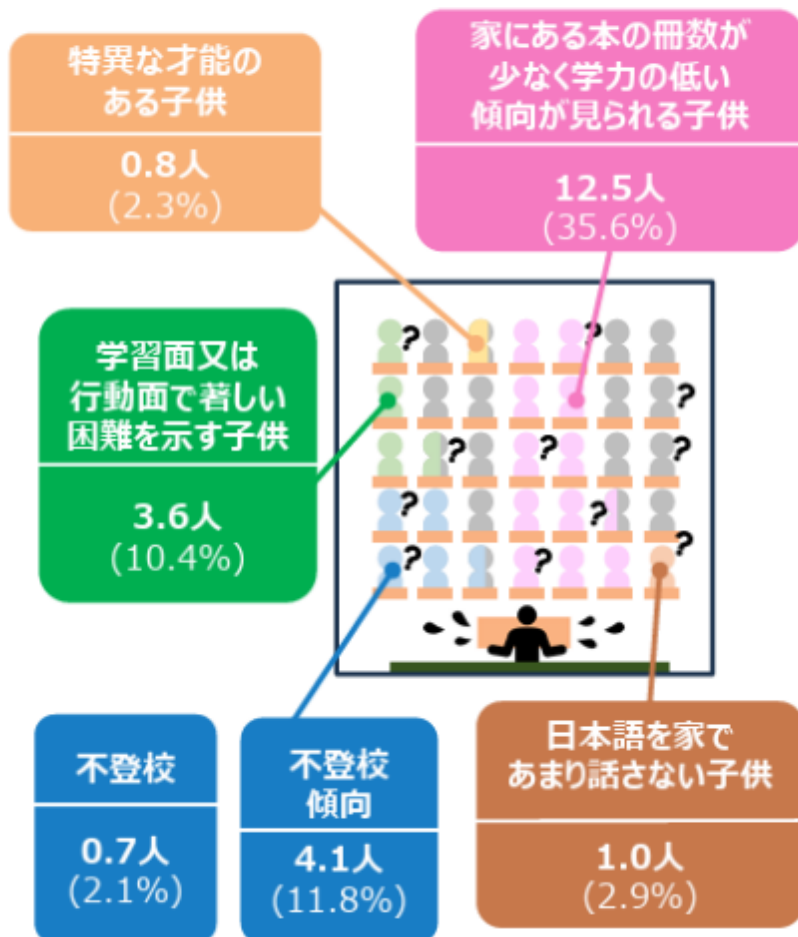


※「初発の思考や行動を起こす力」と、「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」との往還を通じ、粘り強く継続的に思考・行動する経験が繰り返され、「学びに向かう力、人間性等」が育まれる

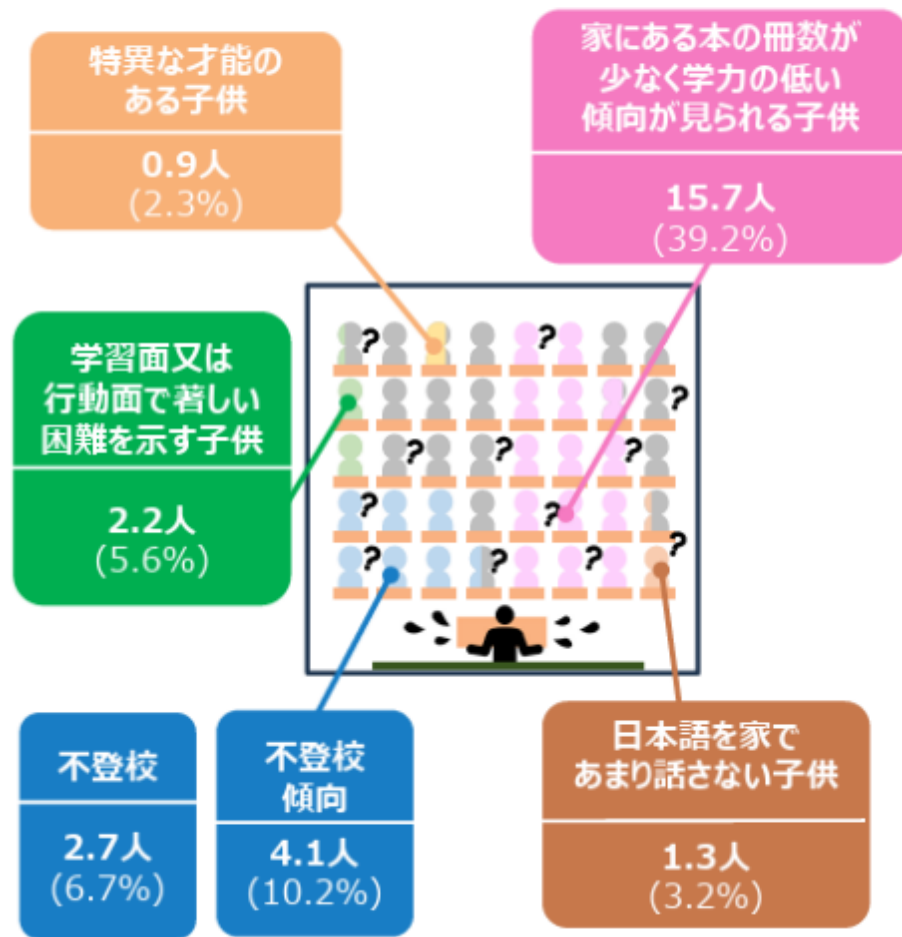
児童生徒の多様性を包摂する必要性（小・中）

- どの学校でも、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化。多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題

小学校（35人学級）



中学校（40人学級）



※各数字の出典は諮問参考資料P45,46参照

https://www.mext.go.jp/content/20242127-mxt_kyoiku01-000039494_03.pdf

スタートカリキュラムのマネジメント

子供の姿が出発点

PLAN

3月末
までに

校内組織を 立ち上げて準備しよう

- 意義、考え方、ねらいなどを全教職員で共通理解し、保護者へ説明する
- 幼稚園・保育所等への訪問や教職員との意見交換、要録等から子供の実態をつかみ、指導や支援、子供のよさを小学校につなぐ
- スタートカリキュラムを編成する

校内組織例「スタートカリキュラム作成委員会」

校長、教頭、教務主任、現1年担任、新1年担任、生活科主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなど

保護者に伝えよう！

～入学説明会～

園での生活が小学校生活の基盤になることを伝えましょう。保護者の安心が子供の安心につながります。

子供を知ろう！

～園に行ってみよう～

園では、子供の主体性を大切にしています。生活リズム、環境の構成や教師の関わり方など、4月からの授業につながるポイントをたくさん知ることができます。

保護者に伝えよう！

～学級便り・懇談会など～

子供が興味・関心をもって学習に取り組む様子を保護者にエピソードで語りましょう。活動を通して、主体的に学ぶ姿を保護者にも理解してもらうことは、保護者の意欲の発露につながります。

- 学級担任だけでなく、全教職員で協力体制を組み、見守り、育てる
- 発達の特徴を生かし、具体的な活動や体験を取り入れた授業を工夫する
- 環境構成を工夫し、安心感がもてるようにする

協力体制の例

- 入学当初は、複数の教職員が1年生の教室に入ることができるよう、学校全体で時間割を調整する。そうすることで、他学年の担任も間接的にスタートカリキュラムに協力することができる。



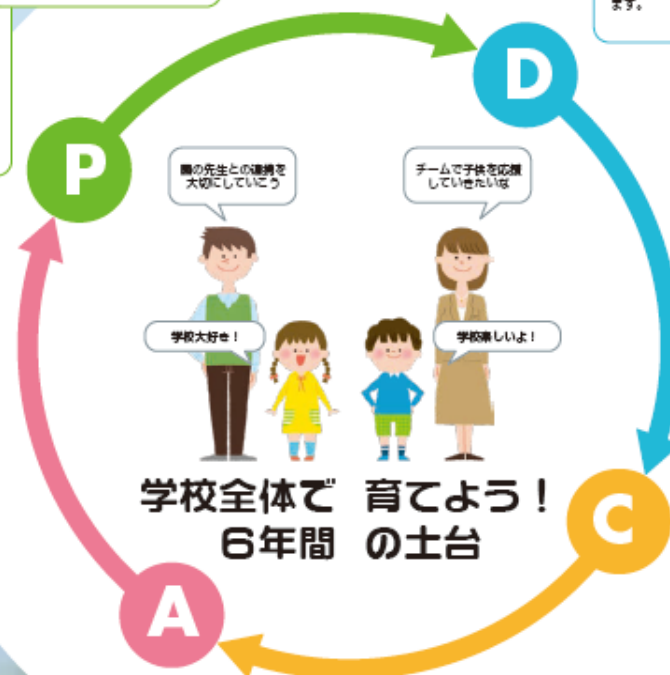
ACTION

時期を捉えて、 反省・検証・改善しよう

- 長期休業後の学校生活への適応に向けて、夏休み明けの子供への指導に改善点を生かす
- スタートカリキュラムの改善のために、週案などの資料をデータベース化し共有する
- 1月から3月に掛けて、次年度のスタートカリキュラムの改善を図る

改善の例

- 連休明けに不安になった子供が多かったので、夏休み明けに心をほぐす活動を取り入れる
- 写真入りで手順を示すと落ち着いて生活できたので、子供の目線で学習環境を見直す
- 次年度のスタートカリキュラムの編成に向けて、幼稚園・保育所等の教職員との合同研修を計画する



園の先生に 相談してもらおう

参観後、子供の姿や指導の在り方について気が付いたことを話し合いましょう。園での様子と比較することで、子供の成長を把握することができます。

CHECK

子供の姿・指導の在り方を 語り合おう

- 取組がねらいに沿っているか、子供の姿で日々評価する
- 学年会などで、子供の成長する姿や指導方法について情報交換する
- スタートカリキュラム作成委員会や職員会議などで、実施状況を共有する

評価方法の例

- 子供の姿を週案などに記録する
- 子供の書いたものや作品を使って評価する
- 様々な立場から子供の様子を捉え評価する



話しやすさ、聞きやすさ、
伝え合いやすさ、読み合いやすさ
を生み出すもの

▶物的環境（もの、空間、時間）

- ①安心できる環境
- ②共同注意の向けやすさ
- ③視線の合いやすさ
- ④人との関わりやすさ（近接性）
- ⑤表現のしやすさ（身体性）
- ⑥表現のしやすさ（発言の仕方）

▶ 人的環境（保育者や教師の関わり）

① 信頼できる関係性

② 受容的なかわり

③ 子どもの資質・能力への信頼

④ 共に面白がり活動を発展させる工夫

▶指導計画の考え方

①個の興味・関心を活かした活動展開

合科的・関連的な指導、弾力的な時間割など

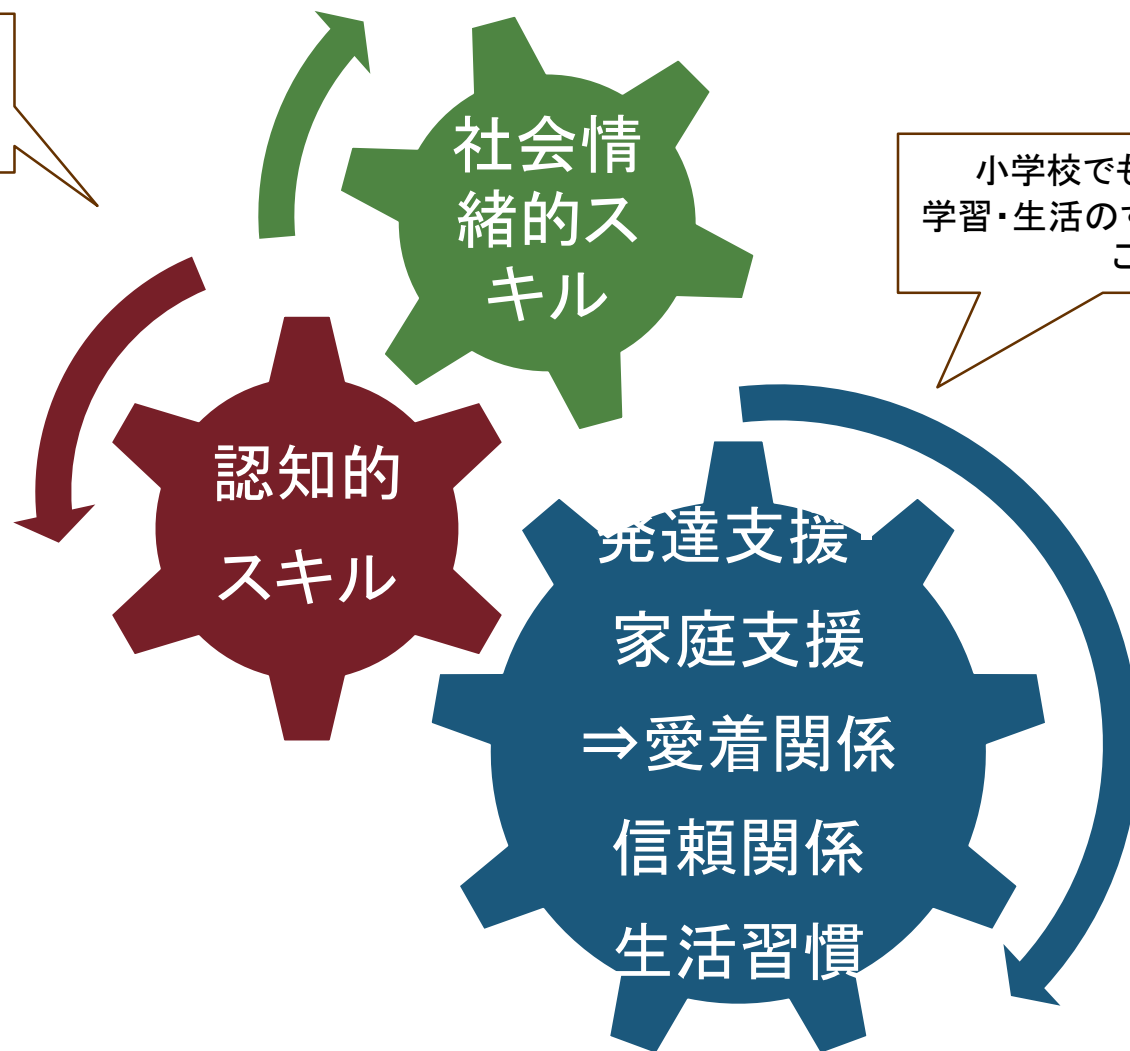
②個の遊びや学びが共有され広がる環境設定や活動

③全体での遊びや学びが個の遊びや学びに発展する活動展開

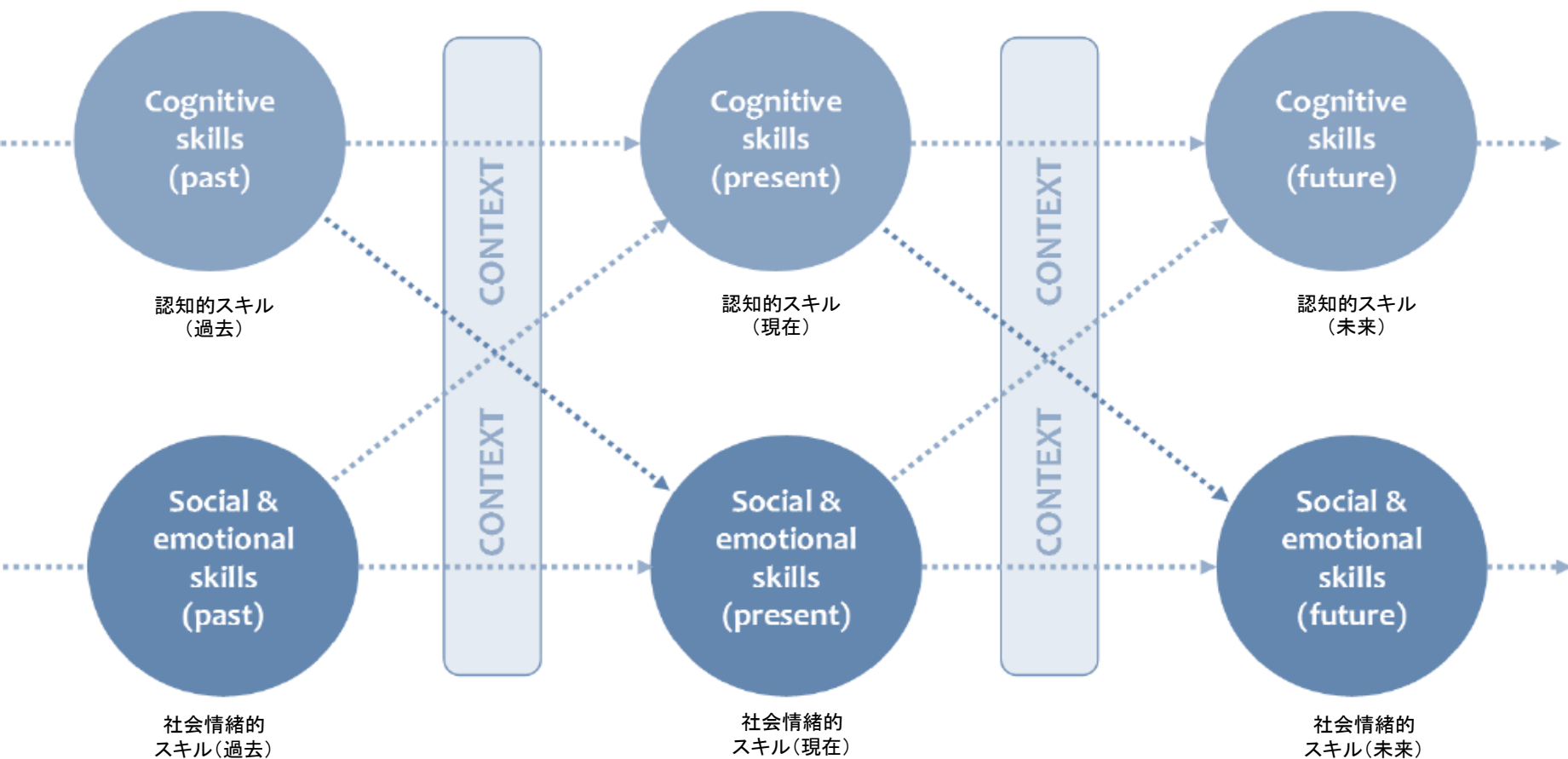
⇒柔軟なカリキュラム・マネジメント

⇒Ⅰ授業内、Ⅰ単元内、Ⅰ年間など短期・長期両方の
カリキュラム・マネジメントが必要

相互に関連し
あって伸びていく



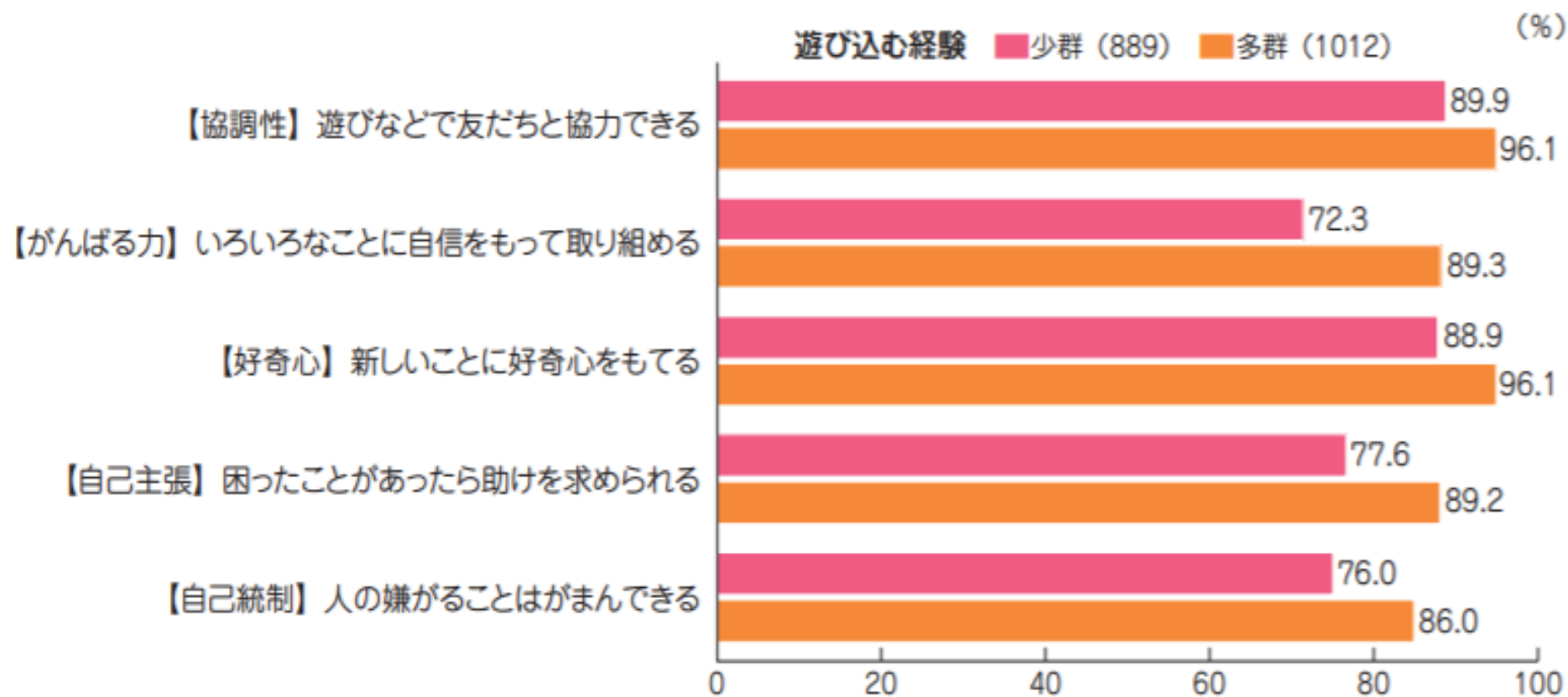
小学校でも中学校でも
学習・生活のすべての基盤は
これ



認知的スキルと社会情緒的スキルのダイナミックな相互作用

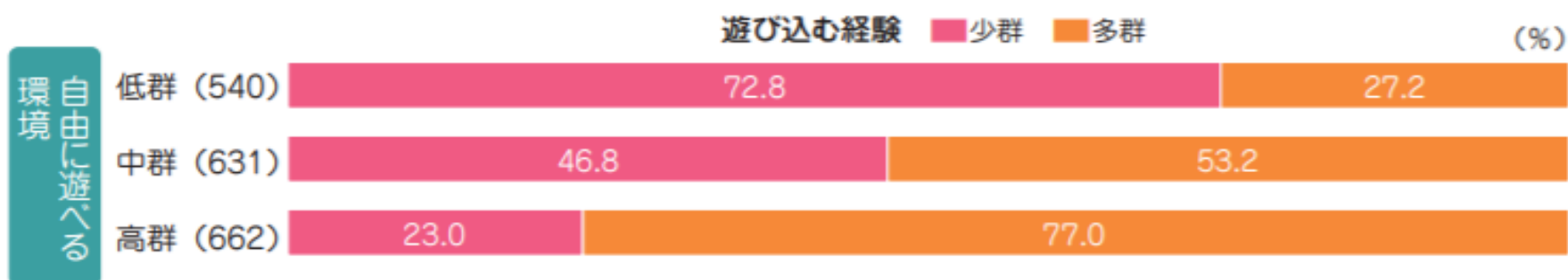
OECD(2018) Social and emotional skills for student success and well-being: Conceptual framework for the OECD study on social and emotional skills, OECD Education Working Paper No.173(筆者訳)

図2-3-1 子どもの「学びに向かう力」(遊び込む経験別)



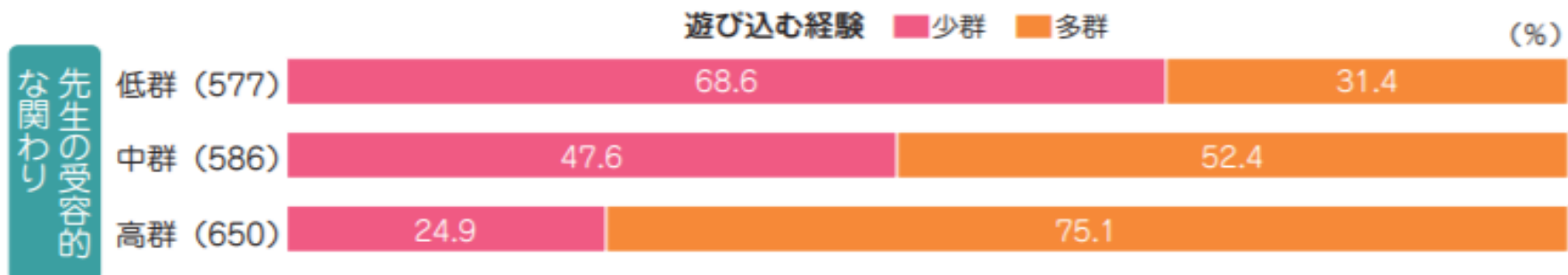
ベネッセ (2016) 「園での経験と幼児の成長に関する調査」

図2-3-2 遊び込む経験(自由に遊べる環境別)

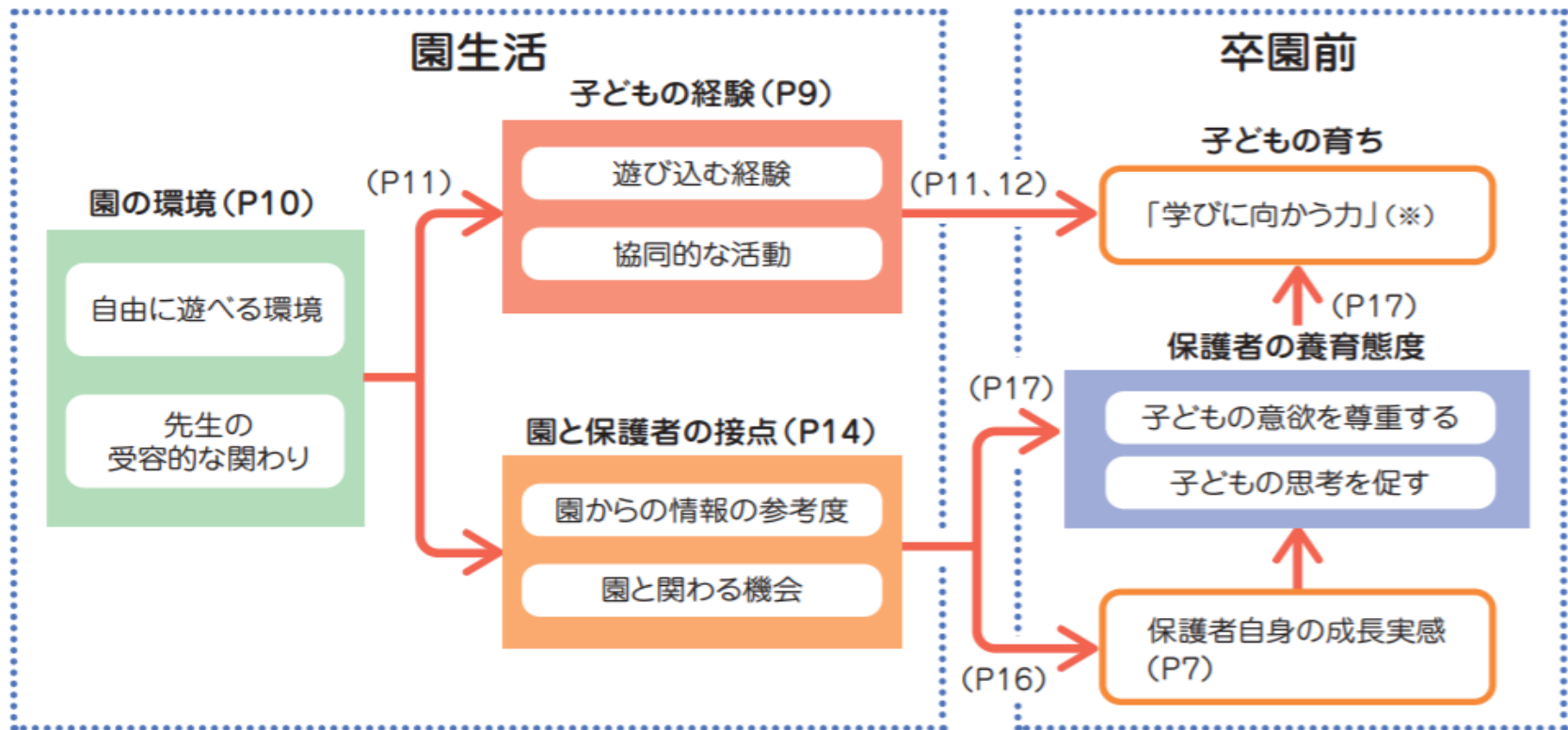


※「自由に遊べる環境」は、5項目 (P10、図2-2-1) について、「とてもあてはまる」を4点、「ややあてはまる」を3点、「少しあてはまる」を2点、「あてはまらない」を1点として合計値を得点化し、3区分した。1項目でも「わからない」を選択した人は除く。※「遊び込む経験」は、6項目 (P9、図2-1-1) について、「とてもよくあった」を4点、「よくあった」を3点、「たまにあった」を2点、「あまりなかった」を1点として合計値を得点化し、2区分した。1項目でも「わからない」を選択した人は除く。

図2-3-3 遊び込む経験(先生の受容的な関わり別)

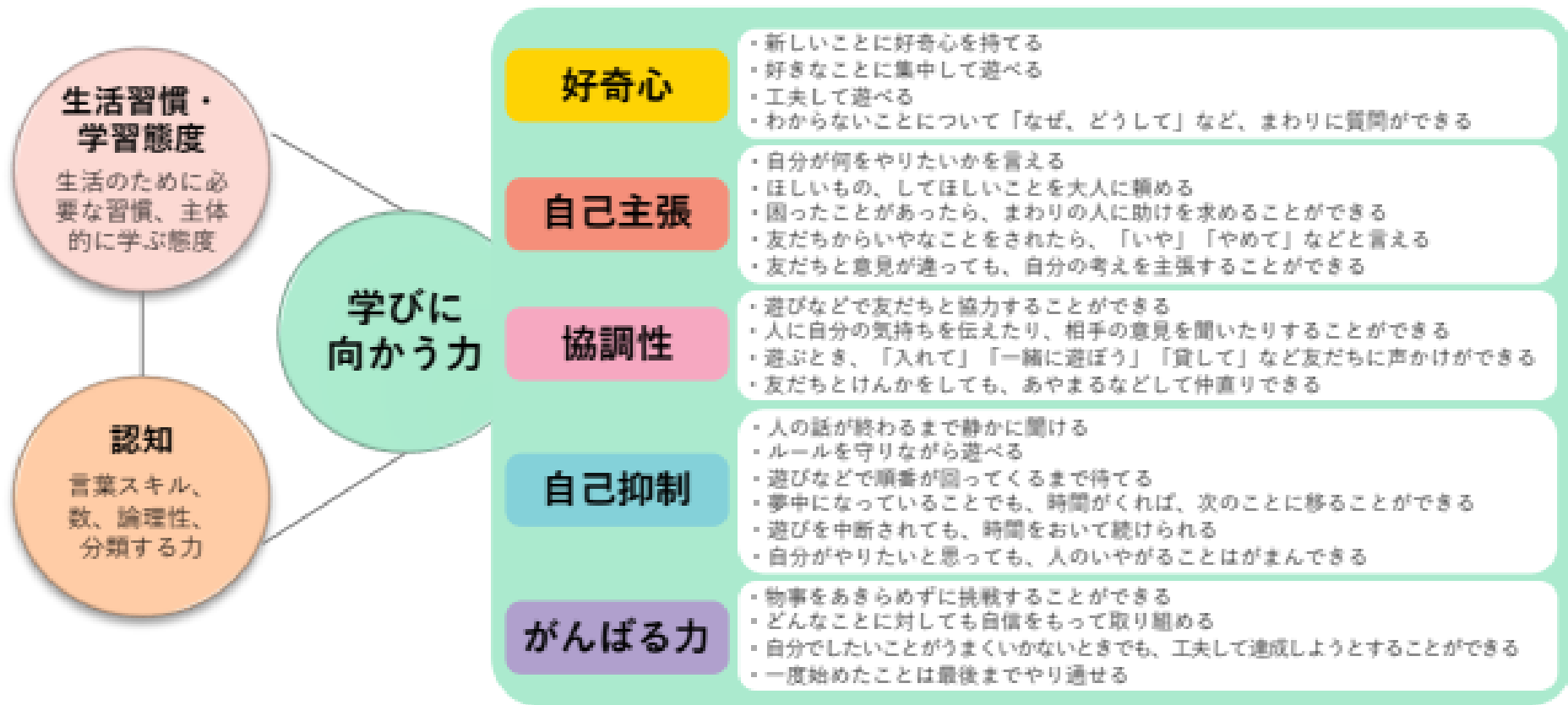


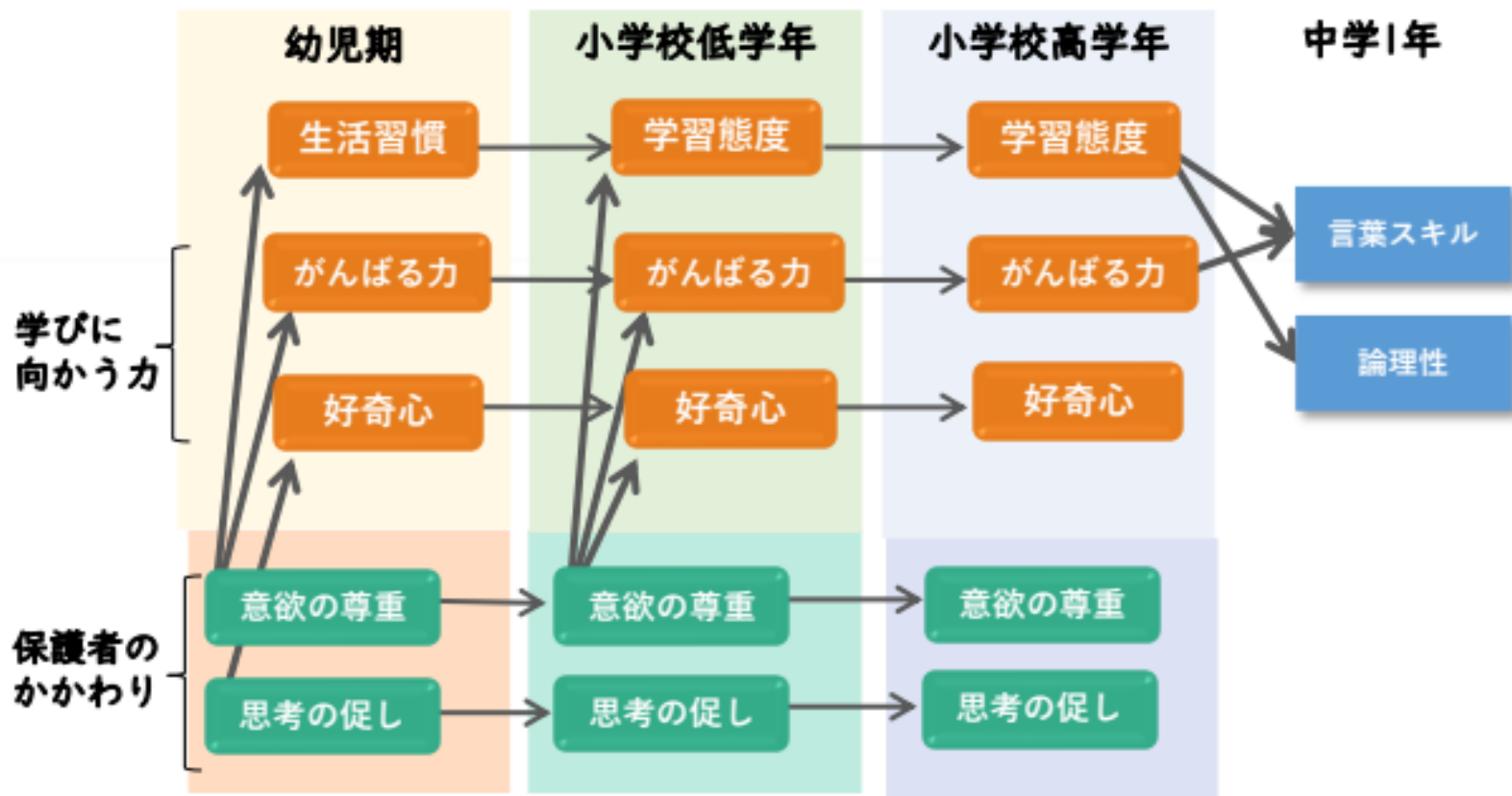
ベネッセ (2016) 「園での経験と幼児の成長に関する調査」



※「学びに向かう力」について

本調査では、子どもの育ちとして「好奇心」「協調性」「自己統制」「自己主張」「がんばる力」を「学びに向かう力」と設定して、園生活との関連を調べた。「学びに向かう力」は生涯にわたり、社会生活を営むうえで基盤となる力である。また、「幼児期から小学1年生の家庭教育調査」(ベネッセ教育総合研究所)において、小学校入学以降の学習や生活につながる幼児期の学びとして設定した3つの軸(「学びに向かう力」「文字・数・思考」「生活習慣」)のひとつである。





※ 中学1年調査での子どもの回答数に合わせて、分析データは223名分としている。

※ 図中の観測変数及び潜在変数は、子どもの月齢、性別、母保護者の学歴による影響を統制している。

架け橋期の言葉の特性

架け橋期（幼児期と児童期両方の特性をもっている）

【幼児教育】

学びの芽生え

（無自覚な学び）

一次的ことば

（文脈依存の話し言葉）

⇒

【小学校以上】

自覚的な学び

⇔

二次的ことば

（文脈独立の話し言葉
書き言葉）

メモ書きと文字獲得（石本，2022）

年少群：多様な線画・絵画

年中群：主に絵画

年長群：絵画と文字

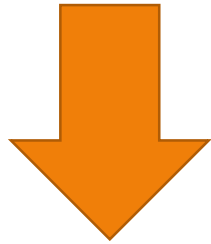
小1群：ほぼすべて文字

⇒年齢が上がるにしたがってメモの形式が変化し、他者から理解可能な形式になる。

メモが記憶として役立つとき

年長群：絵画と文字

⇒かいているときの発話が多い子は記憶再生度高
＝意味生成が起きている



文字獲得に
つながる！

小1群：ほぼすべて文字

⇒自身の記憶補助となり、他者からも理解され
やすい

話しやすさ、聞きやすさ、伝え合いやすさを生み出すもの

話す意欲を高める

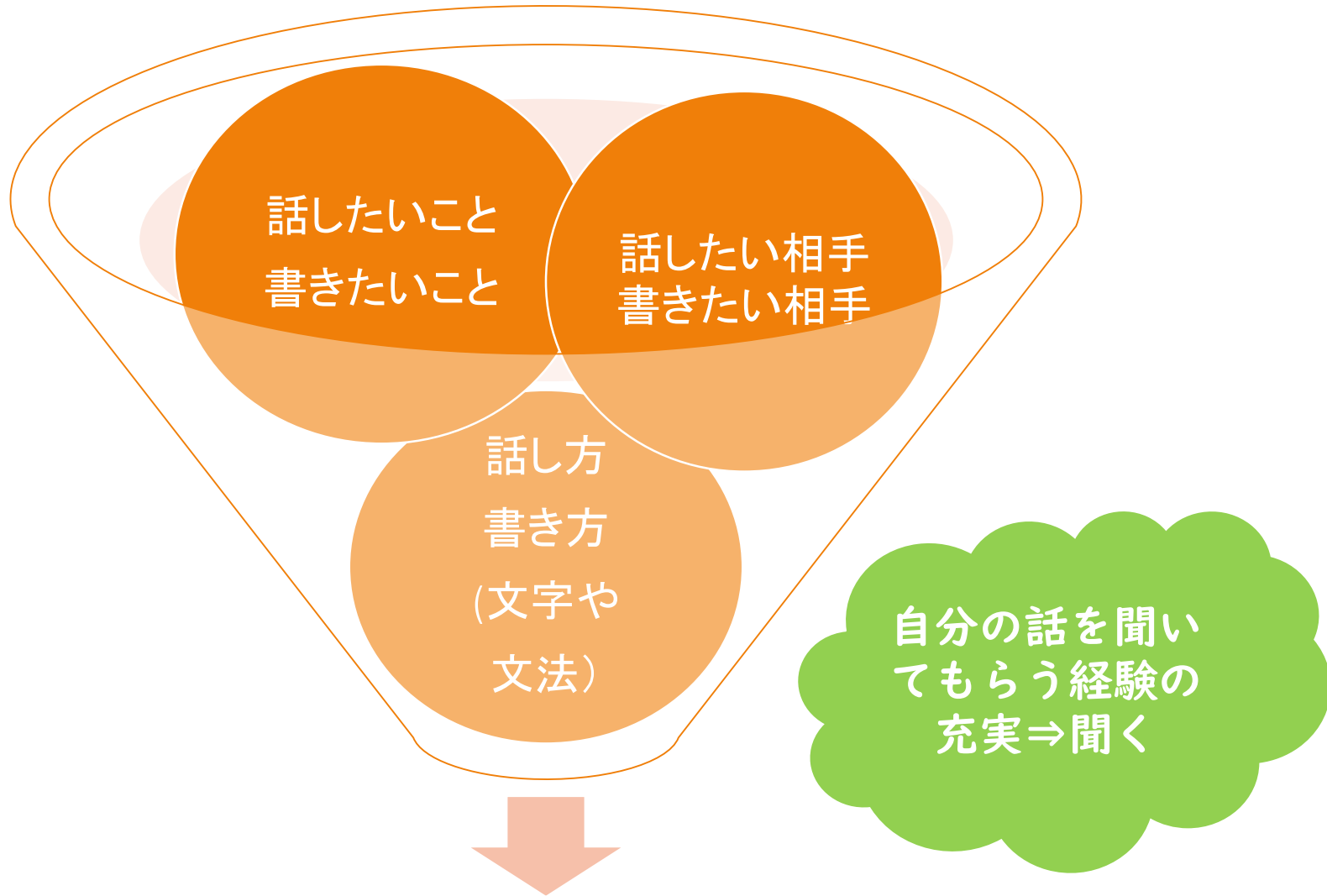
- ①伝達内容の堆積（共有したい思い、経験）
- ②伝達対象への愛着
- ③伝達目的の明確化
- ④伝達（話すこと・書くこと）の違いや意味に気づく
- ⑤伝達様式（話し方・聞き方）の習得

話しやすさ、聞きやすさ、伝え合いやすさを生み出すもの

聞く・伝え合う意欲を高める

- ①理解しやすい内容（興味関心、共通体験）
- ②理解しやすい形式（伝え方・可視化）
- ③聞きやすい・伝え合いやすい環境構成
- ④聞く・伝え合う意義
（聞いてもらった満足の経験、異なる体験）

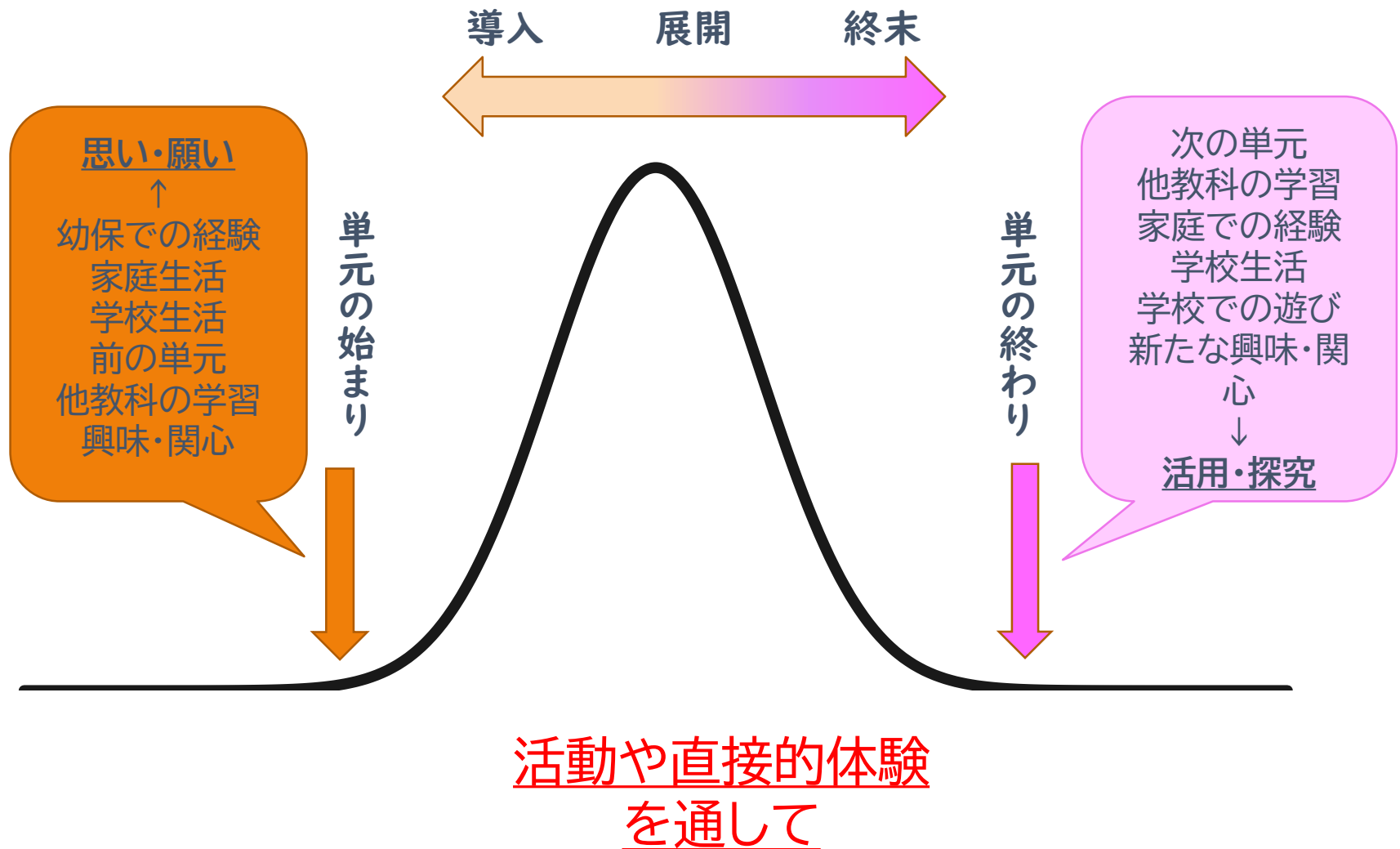
表現すること・聞くことの成立



自分なりの表現・国語表現

「やってみたい」が生まれる授業

柔軟なカリキュラム



令和6年度

- ▷遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”
～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や
思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～
（動画コンテンツ）

<https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo>

- ▷幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？
（幼児教育及び小学校教育関係者向けの参考資料）

令和7年度

- ▷幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ（幼児教育
の重要性に関する普及啓発動画）

https://www.mext.go.jp/content/20250509-mxt_youji-000035147_7.pdf

◆ 幼児教育の重要性お知らせポスター

ポスター

幼児期に 本当に大切な学びって 何ですか？

幼児期は、「遊び」の中で周囲のヒト・モノ・コトに自ら進んで関わりながら、
豊かで多様な体験を通して、様々な「学びの芽」を育てていく時期です。
小学校以降の学びの基礎となる「学びの芽」。
そんな「学びの芽」はどのように育てられているのでしょうか？



見てね！

幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ



幼児教育は何のため？
(約2分)



「遊びは学び」って
どういうこと？
(約7分)



「学びの芽」を育む
園の工夫って？
(多様な遊び編)
(約9分)



「学びの芽」を育む
園の工夫って？
(どろだんご遊び編)
(約7分)

遊びは学び 学びは遊び
「やってみよう！学びの芽」

文部科学省

(文部科学省HP)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html



◆ 幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ

幼児教育は何のためであるのか、幼稚園等
においては、子供たちに遊びを通して、どのよ
うに資質・能力を育てているのかについて、各
動画で解説しています。

動画
コンテンツ

幼児教育は何のため？ (約2分)

✓ 幼児期の大切な学びが分かる動画

<https://youtu.be/MExUaZ6M3G0>



「遊びは学び」ってどういうこと？ (約7分)

<https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo>



「学びの芽」を育む園の工夫って？ (多様な遊び編) (約9分)

<https://youtu.be/VNjOwpuDd44>



「学びの芽」を育む園の工夫って？ (どろだんご遊び編) (約7分)

<https://youtu.be/VuIP2CUKq-U>



お話

東京都教育庁指導部義務教育指導課

吉田 元先生

東京都昭島市立光華小学校

安藤 浩太先生

国語科の特徴

国語科は「言葉による見方・考え方」を働かせながら、様々な言語活動を通して、言葉を正確に理解し適切に表現できる資質・能力を育む教科です。

幼児期では、遊びや生活の中で経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養っていきます。気持ちや行動をコントロールしたり、他者とやり取りしたり、絵本や物語を楽しんだりするなど、言葉を介して身近な人と関わりながら多くのことを学んでいます。そしてそれは、資質・能力の育成に大きく寄与しています。

また、幼児期では自分なりの言葉で話すこと、友達や保育者の話を聞くこと、いわゆる「話すこと・聞くこと」といった音声言語が中心であり、小学校では、そこに「書くこと」「読むこと」といった文字言語での学びが加わります。このような用いる言語の特徴を自覚し、幼児期に育まれた言葉に対する感覚や言葉で表現する力を生かしながら、円滑に接続できるようにすることが求められます。そのために、絵本や紙芝居などの児童文化財を教材や学習活動に取り入れたり、幼児期の学びを生かし、環境の構成を工夫したりするとよいでしょう。

そういった言葉の育ちは、国語科だけでなく、小学校でのあらゆる学習の基礎になっていくと言えます。

幼児期の遊びを通した学び

遊びや生活の中での様々な感動体験を言葉で伝えたり、聞いたりしながら、話すこと、聞くことの楽しさを味わいます。そうして保育者や友達と心を通わす中で、絵本や物語に親しみながら豊かな言葉や表現を身に付けていきます。また、遊びや生活の中で、文字に親しみ、興味や関心をもつようになります。

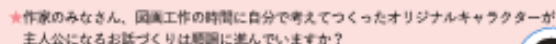
具体的には…

- 自分の思いや考えを言葉で伝えたり、友達の考えを聞いて取り入れたりしながら遊びを進める面白さを味わう
- 園庭で知らない虫を見つけた驚きや嬉しさを友達に伝えたり、絵本や図鑑で虫について調べることを楽しんだりする
- 読み聞かせで読んでもらった絵本を気に入り、繰り返し絵本を見たり読んだりしながら、文字への興味や関心を深める

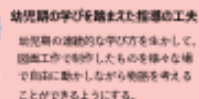
小学校ごっこを遊ぶ中で知っている文字などを書いている。
お店屋さんごっこに必要な看板やメニューを絵と文字でかいている。

目標	(知識及び技能) 身近なことを表す語句の量を増やし、文章の中で使うことができる。 (思考力、判断力、表現力等) 自分の思いや考えなど無意識にしていることが明確になるように、事物の図柄について整理と分類を考えることができる。 (学習者にとっての学び) 漢字の読みかた、漢字の意味、漢語を大げさに読む、読みかたを仮名でかきうつる。
学習計画	①(教科書との関連) 国語指導で使われる教材をすべてオリジナルなキャラクターとしてつくりだす。 ②(3(本)の準備) 作成した教材をもとに絵をお話を書くという学習の見通しをつくる。物語を書くために、絵の描画や物語の進め方について出来る準備を、「はじめての絵、描くお話をしよう」というテーマで準備する。 ③(準備の準備) 漢字の読みかたが詳しくなるようにお話を書いたり、書いたりお話を読み出し、得意な人がお話を完成させる。 ④(準備の準備) 漢字の読みかたが詳しくなるようにお話を書いたり、書いたりお話を読み出し、得意な人がお話を完成させる。

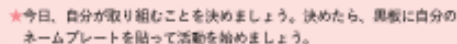
前時を振り返り、取り結むことへの見通しをもつ。



- うん、この前は「はじめ」でどんなことが起こるか考えたから、今日は「中」でどんなことが起こるか考えたいな。
- 友達とキャラクターを動かしながらお話を考えたのだけれど、途中で終わったから、その続きからやりたいな。



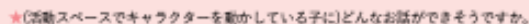
お話の中でどんな出来事が起こるか考えよう。



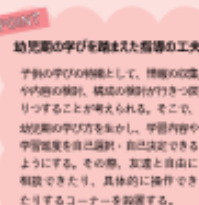
- ばくは、この前キャラクターを動かしてお話ができてきたから、まずはどんなことが起ったか、書いてみようかな。
- 「中」で、友達と遊んでいて神童りできるようにしたんだっ。今日は、「終わり」の出来事を考えてみようかな。似たようなお話がないか、調査スペースで絵本を探してみようかな。
- 「はじめ」で森に行くことは決まっただけれど、次はどうしようかな。友達に相談してみよう。



制作物を動かしたり、友達に相談したりして想像を広げ、まともなごとにお話の出来事を書く。

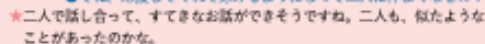


- 私のキャラクターは海に来ていて、泳げるようになりたいなって練習しているの。
- そうそう。私は「がんばって」って応援している役をやってるの。
- でね、応援してくれて泳げるようになって二人は仲よくなるの！

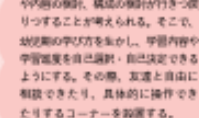


幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

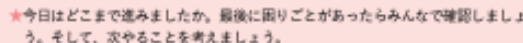
子供の学びの特性として、情報の記憶や内化の傾斜、構成の傾斜が行きつり返りすることや考えられる。そこで、幼児期の学び方を生かし、学習内容や学習態度を自己選択・自己決定できるようにする。その際、友達と自由に相談できたり、具体的に操作できたりするコーナーを設置する。



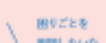
- うん、鉄棒で似たようなことがあったの。そのときも友達が応援してくれたんだ。とっても嬉しかったの。



本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。



- 聴かしていくと出来事がたくさん生まれちゃって、頭がゴチャゴチャに
なっちゃいました。
- そうしたら次に出来事を書いたカードを順番に並べてからキャラクターを
聴かせて確認したらいいんじゃない。
- 私、[睡けり] までカードに書いたから、順番通りキャラクターを動かして
みて、出来事を付け足して、もっと面白くしてみたいです。



困りごとを
解決したかった



個別最適な学び

協働的な学び

***“Focus on making schools ready for children,
not children ready for school”***

「子どもたちを学校のために準備させるのではなく、学校が子どもたちのために準備することに焦点をあてよう」

—OECD(2017) “Starting Strong V”

